

## 「 $\beta$ -TG、PF-4 用容器(容器番号:19番)」 変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、下記項目の検体採取容器「 $\beta$ -TG、PF-4 用容器(容器番号:19番)」が製造販売中止されることに伴い、別メーカーが販売する代替容器に変更させていただきます。なお、検体提出量に変更はありませんが、容器変更により採血量が2.7mLに変更となります。



取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■対象項目/変更内容

- [1173]  $\beta$ -トロンボグロブリン( $\beta$ -TG) (総合検査案内 115 頁掲載)
- [1174] 血小板第4因子(PF-4) (総合検査案内 115 頁掲載)
- [ - ] トランスフォーミング増殖因子- $\beta$  1(TGF- $\beta$  1) (総合検査案内 145 頁掲載)

| 変更内容 | 新  | 旧   |
|------|--|---|
| 容器名称 | $\beta$ -TG、PF-4 用容器(容器番号:19番)   |   |
| 採取容器 | <br>[アルミ包装] |  |
| 採血量  | 2.7 mL   | 4.5 mL  |
| 添加剤  | テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、クエン酸、クエン酸 Na  | 同左  |
| 保管方法 | 冷蔵・遮光  | 同左  |
| 有効期間 | 容器および外装表示  | 1.5 年   |

#### ■変更期日

- 2020年10月31日(土)受付日分より

※上記期日以降も旧容器をお使いいただけますが、旧容器の有効期限は2020年11月30日(月)となります。

# β-TG、PF-4 用容器／採血方法と変更点

β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)およびトランスフォーミング増殖因子-β1(TGF-β1)をご依頼の際は、必ず指定容器(容器番号:19番)をご使用ください。なお、容器変更により採血量／血液4.5mLから2.7mLに変更となりますが、乏血小板血漿の検体提出量に変更はございません。

## ■採血量と検体提出量

●[1173] β-トロンボグロブリン(β-TG)

●[1174] 血小板第4因子(PF-4)

| 変更内容  | 新                        | 旧         |
|-------|--------------------------|-----------|
| 採血量   | 血液 2.7 mL [容器番号:19番]     | 血液 4.5 mL |
| 検体提出量 | 乏血小板血漿 0.5 mL [容器番号:02番] | 同左        |

●[ - ] トランスフォーミング増殖因子-β1(TGF-β1)


| 変更内容  | 新                        | 旧         |
|-------|--------------------------|-----------|
| 採血量   | 血液 2.7 mL [容器番号:19番]     | 血液 4.5 mL |
| 検体提出量 | 乏血小板血漿 0.6 mL [容器番号:02番] | 同左        |

## ■採血方法と変更点

(総合検査案内 117 頁より)


### β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)の採血方法

操作を2分以内に行う



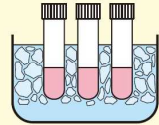
4.5mL  
(変更後)  
2.7mL

20ゲージ(19~23ゲージ)の針を用いたポリプロピレン注射器により(組織から組織因子の混入を避けるため)2シリンジ法で初めの血液2mLを捨て、次の血液4.5mLを採取して下さい。真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。また、できれば止血帯も使用しないで下さい。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。




予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液4.5mLを移し、ゆっくり2~3回回転混合して下さい。指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。

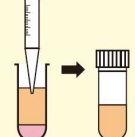
採血量を4.5mL→2.7mLに変更(検体提出量は変更なし)



採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。角氷は使用しないで下さい。



砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2~8℃で遠心分離して下さい。(下表に2,500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。)  
1時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。



上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL\*検体容器へ採取して下さい。検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存して下さい。(1ヶ月安定)  
血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

\*TGF-β1は0.6mL